

体感、感動、感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

coc-nbu.jp

July 2015 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと



Oita University of Nursing and Health Sciences

大分県立看護科学大学



NBU
NIPPON BUNRI UNIVERSITY
日本文理大学

地域のために今、 大学ができること。

大分県内、COC採択大学による共同記者会見

文部科学省が地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業Center of Community(大学COC事業)」。日本文理大学のCOC事業は、NBUが推進してきた「人間力」を土台に、地域の課題を発見し、地域の皆さんと解決を図る「課題解決力」を兼ね備える若者「おおいた、つくりびと」を育成。キーワードは、体感、感動、感謝です。

No. **01**

地方創生へ向けて、COC採択大学がスクラム。

地域をまもる、地域をつくる、COC事業に取り組む大学の役割とビジョンを両学長が語る。



大分県立看護科学大学
理事長・学長
村嶋 幸代

頭に置いたさまざまな施策が進むなか、大分県においてもクローズアップされている「地方創生」。その牽引役として期待されているのが、高等教育機関である、大学の役割。文部科学省では、2年前より「地(知)の拠点整備事業」を始め、地方の大学が地域のための大学に変革していくことを積極的に支援している。COC事業は、全国の国公立の大学・短大・高専を対象に公募型で実施され、平成25年度は全国から319件の応募に対し採択は52件。平成26年度は237件のなかで、わずか25件のみが採択されるという非常に狭き門。そのなかで、大分県では、平成25年度に大分県立看護科学大学の「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」、平成26年度には、日本文理大学の「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」が採択された。

今回、多くの県民に、COC事業の取り組みを知ってもらうこと、両大学への支援・協力をいただくことを目的に共同記者会見が実現。まず初めに、これからの大分県を担う人材を育成するための各大学の取り組みについて、両学長が説明した。大分県立看護科学大学の村嶋幸代学長は、COC事業の目的として「看護学生が予防的な家庭訪問実習を通して、地域に住む高齢者の健康や生活を学ぶこと。高齢者の健康を通して地域の再生や活性化に寄与すること。家庭訪問を通じて、世代や学年を超えた支え合いの大切さを学ぶこと」をアピール。すでに大学の近くのエリアにおいて、地域の自治会、市や県をはじめとする、いろいろな団体との連携実績を報告。訪問先の利用者から「孫が来るような感じがしてうれしい」。教員からは「学生が笑顔で帰っ

文部科学省が、地域社会と連携し、教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業Center of Community(大学COC事業)」。大分県内からは平成25年度に大分県立看護科学大学、平成26年度には本学が採択されました。それを受けて、平成27年4月28日、JRおおいたシティにて“大分県における地方創生と「地(知)の拠点」の役割”をテーマに両大学が共同記者会見を開催。両学長が取り組み内容、今後の展望、両大学の連携について発表しました。

地域の高齢者の健康を守る
家庭訪問実習への取り組み。

少 子高齢化、人口減少、また東京一極集中への歯どめということ念



てきて、授業で伝える以上のことを学んでいるようだ」という声も紹介された。

“大分スピリット”を宿す
地域創生人材を育てる。

続いて、日本文理大学の取り組みを平居孝之学長が説明。「大分県内全域をキャンパスとして考え、“大分スピリット”を宿す地域創生人材を育成したい」と力強いメッセージを発信。大分市、豊後大野市と連携協定を締結、大学の近くにあり高齢化が進む佐賀関地区をはじめ活動拠点が広がっていることを紹介した。

「植林や農業体験など、体験交流活動から学生たちが何かを感じ、解決すべき課題を見つけることが大切」と述べた。スクリーンには、佐賀関で開催された「地域おこし」をテーマにしたワークショップや豊後大野市の新たな名産品の開発プロジェクトに取り組む学生たちの様子が映し出されたが、地域の人たちと真摯に向き合う姿が印象的だった。

地域密着スタイルを掲げ
課題解決にチャレンジ。

記者会見の後半は、「地域をまもる、地域をつくる、大学の役割」をテーマに、(株)日本政策投資銀行 大分事務所の武田浩所長をコーディネーターに迎えて、両学長が対談。「地域の高齢者を訪問することで、その人の生き方や趣味、ふだんの動きを知ることが、医療の世界を志す学生にとって大きなプラスとなっている」と語る村嶋学長。「継続的に地域の人たちと関わることで、学生にも、地域の皆さんにも一体感が生まれてきている」と平居学長も地域との関わりや結びつきの大切さを語った。

COC事業による意識改革は学生だけではなく、教員や大学全体にも広がっている。「看護学生にアドバイスを送る側の教員が、学生と一緒に地域の問題に気がつくようになった」、「NBUの教育課程の多くの科目のなかに、地域創生に特化した教育内容が盛り込まれるようになってきている」と、両学長はCOC事業がもたらしたプラスαの成果を口

にした。地方創生に関しては、「病院での実習から、地域に根差した実習へ。訪問看護や、福祉施設、将来的には、高度実践ができるようにして、地域で働くことができる看護師を育成していくことが重要」と村嶋学長。「地域が持つ課題を一つでも多く解決することで、実績を残していくことが地方創生へつながる」と平居学長。COC事業に取り組む大学として、よきパートナーと語る両学長。今後の連携ビジョンも視野に入れているようだ。

コーディネーターの武田所長は「COC事業のポイントは、地域密着。大学キャンパスだけでなく、地域に出向き、きちんと時間をかけて、地元の方とコミュニケーションを取ることが成功の鍵になるのでは」とコメント。地域をまもり、地域をつくるため、COC事業に取り組む両大学の活動に大きな期待がかかる。

記者会見の動画は、NBUのCOC特設サイトをチェック



学校法人日本文理学園
日本文理大学第6代学長
平居 孝之

NEWS



2015.5.8 毎日新聞(朝刊)

共同記者会見が
各紙に掲載!

「地方創生へ学生育成」、「地域連携の成果を報告」の見出しとともに、両大学の共同記者会見の記事が毎日新聞、大分合同新聞に掲載。

※掲載記事は許諾を受けています。



2015.4.29 大分合同新聞(朝刊)

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、
教職員、地域の皆さんにインタビュー。

01



大学COC事業推進責任者
吉村 充功

Q. COC事業を「おおいた、つくりびと」と名付けていますが、吉村先生の考える、「つくりびと」とは？

A. 地域に出向き、いろんな体験交流活動をおこなうなかで、いちばん大切なのは「他人事でなく自分事にする」ということ。ひとつのプロジェクトにおいて、どれだけ自分事ができるか、住民目線になれるかなんです。当事者として、自分の意志で何ができるかということを考え、アクションを起こせるのが、私の考える「つくりびと」。地域課題の解決にチャレンジするには、自分が今まで蓄積してきたものをベースに、仲間や先生、住民の人たちとの議論のなかで何かしらのアウトプットを出せるというところまで行くことが重要で、そのプロセスを経験しながら「つくりびと」として成長を続けることができるのではないのでしょうか。

Q. COC事業に関して、ご自身で心がけていることは？

A. COCの活動は多岐にわたりますが、どんな場面においても、私を含む教員たちが喋りすぎないようにしています。言葉や行動で自分が持っている価値観を押し付けたり、はめ込んでしまうと、そこに学生を閉じ込めることになるからです。学生たちが自分の創造力をフルに働かせることができれば、教員の価値観を超えた達成感を得ることができると信じています。

and more...



PICK UP! COCプロジェクト

2015.05.17

土に触れる、土に学ぶ。

豊後大野市にある広大な畑に、地域の特産品であるサツマイモ「甘太くん」の苗木の植えつけをおこなったNBU1年生の有志。光と風の恵みをたっぷりと含んだ「上質の土」が、甘さが自慢の甘太くんが育つ源。だからこそ、地元の皆さんは土づくりに精を出すといいます。すべての作業が終わり、ようやく腰を伸ばす学生たち。ふと見渡せば、雑草が生えないようにかぶせた黒いビニールの穴から2500本もの苗木が顔を覗かせています。「大雨のある日、腰の曲がったお年寄りが小さなシャベルを持って

サツマイモ「甘太くん」の苗(べにはるか)の植え付け作業

流れ出る土を大事そうにすくいあげているのを見て、何がしたいんだろうと疑問に感じていたけど、今日、その意味が理解できました」と語る学生。いつの時代も、人間にとって食べ物は営みの根源だと頭では理解していた彼らですが、土を耕し、種を撒き、苗を育て、「手塩にかけて育てている人」がいたことを改めて実感したようです。



まだまだあります！
大分県内をステージに進行中の
プロジェクトが盛りだくさん。

- 犬飼名物どんご釣り大会
- 大分県生活環境部消防保安室とNBU学生
- 青少年体験活動奨励制度 表彰式 etc...

くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ